

《入選》

大切な友達

城南小学校 四年

北村 芽生 さん

わたしには、とてもすてきな友達がいます。今日は、その友達に助けられたこと、そしてその経験を通して、自分の目標が見つかったことを書こうと思います。

それは、いやなことを言われて心が傷ついたときのことです。まず、なぜわたしが傷ついたかというところ、算数の時間に問題が分からなかったとき、Aさんから、「そんなことも分からないの。」と、言われたことが始まりです。わたしは悲しくなりました。その上、それを言ったAさんは、笑っていました。わ

たしは、悲しくて泣きそうになりました。けれどもだれにも言えませんでした。なぜ言えなかったのかというと、Aさんも別に悪気があって言ったわけではないと思っただけです。ただ話の中でぱつぱつとだけのことをわたしがつきつく感じただけと分かっていただけです。けれどもわたしは、すぐくつらくて悲しい気持ちになったのです。

そんなとき、Bさんが、「どうしたの。何かあった。」と、落ち込んでいるわたしに気付けて、声をかけてくれました。わたしは、Bさんに言おうかどうかまよいました。もう一度Bさんが、「元氣ないやん。何かあるなら聞けよ。」と、やさしく言ってくれたので、思い切って言うことにしました。なぜなら、その方が心が軽くなると思ったから

です。わたしは、これまでのことをBさんに話しました。そうしたら、Bさんは、しばらくして、

「先生に言ったら。」と、言ってくれました。わたしは、ことわりました。しかし、

「言った方がいいよ。傷ついたらだから。」

と言われ、わたしは思いました。「言ったらわたしの気持ちにはAさんに伝わるのかなあ。」と、思って、先生に話すことにしました。先生に言ったら、Aさんと話しました。Aさんは、

「ごめんね、傷つけたことに気がつかなかった。本当にごめんね。」

と、謝ってくれました。そのひとことでわたしは、すごく心が軽くなりました。これも全てBさんのおかげ。わたしは、下校の時にBさんにお礼を言いました。Bさんは、「よ

かったね。元氣になったね。わたしもうれしいよ。」と、言ってくれました。

そして、わたしは思いました。「こんな時に助けてくれるのが友達だ。また、Bさんのようにすてきな人になりたいなあと思いました。だから困っていたら助けてあげよう。ちゃんと力になる。わたしは、そう決心しました。このことで、わたしは傷ついたら、友達のやさしさを、大切さに気づけたこと、そして友達思いのいい人になるという目的を見付けることができ、よかったと思いました。」